

日本植物學界ノ世界ニ於ケル地位 (承前)

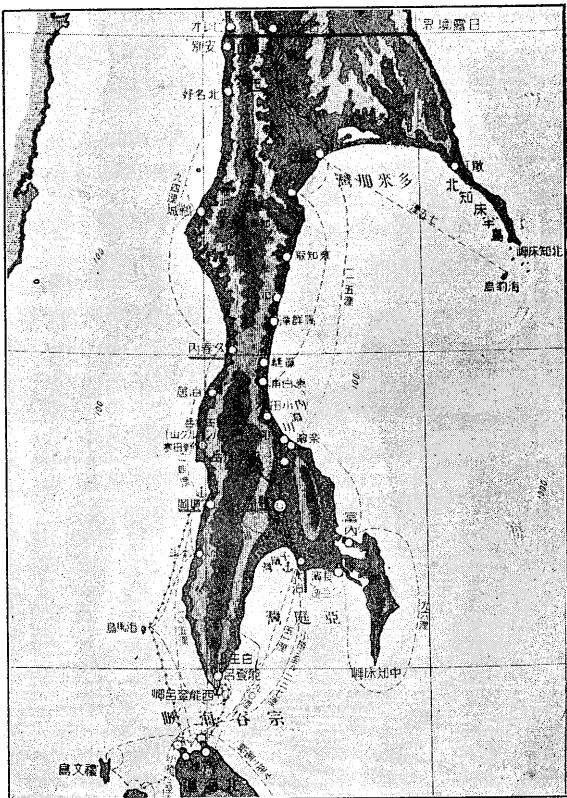
那、直グオ隣リノ支那ノ植物ハ英國、獨國、佛國並ニ露國等ノ學者ガ盛ンニ研究シ從テ其國々ニハ其標品モ大分ニ集マツテ居ルガ之レニ反シテ一番近イ我日本ニハ同國產植物ノ標品ガ非常ニ少ナイ今日東京ノ理科大學ニ在ルモノハ英國ノキウ植物園カラ贈ツテ來タモノデ是レハ同國人ヘンリー氏ガ曩ニ支那デ採集シタモノノ一部デアル全體日本ノ植物ト支那ノ植物トハ互ニ深キ關係ガアツテ親類同志ノ様ナモノデアル其レ故日本產ノ植物ヲ能ク研究スルニハ是非トモ支那ノ植物ト比較スルノ必要ガアル今此必要缺クベカラザル標品ガ我邦ニナイカラ我邦ノ研究者ハ始終誠ニ不自由ヲ感ジツ、アルノデアル此ノ如ク支那植物ノ標品ガ無イバカリデナク又西比利亞、馬來方面、印度、布哇、亞米利加等ノモノモ殆ンド無イト言ツテモヨイ位デアル此ンナ事デハトモ駄目デアアル、ドウシテモ今日ノ様ナ標品貧乏ノ境ヲ早ク脱却シテ疾ク英國ヤ獨逸ナドノ様ニ世界ノ標品ヲ集メナケレバドウシテモ根本的ナ完全ナ研究ハ出來ヨウ筈ガナイ今日デハ大學ノ卒業生モ可ナリアルシ又世間ニハ植物ノ好キナ人モ亦少ナクナイカラ互ニ協力シテ早ク東洋一ノ標品蒐集場ヲ出現サセンコトヲ私ハ我日本ノ爲メニ切ニ願フテ止マナイ私ハ眞ニ我日本ノ植物學ノコトヲ憂ヒテ力ヲ之レニ致シテ呉レルモノガ世間ニ極メテ鮮ナイノヲ常ニ甚ダ遺憾ニ思フテ居ル (未完)

## ○樺太屬島ノ樹木

理學士 小松 春 三

樺太ニ二屬島アリオコック海ノ海豹島、日本海ノ海馬島是レナリ海豹島ハ一ニチュレニ又ハロツペント稱シ北知床岬ノ南方ニアリテ岬端トハ相望ノ間ニアリ數個ノ海豹岩點々トシテ其間ニ續ケリ東北ヨリ西南ニ伸ビ長サ四町幅二町ニ及バズ周圍僅々十數町ニ過ギザル一小礁島ナリ海岸ハ段丘ヲナシ中央ハ五六十尺屹立セリ頂ハ平

日本領樺太



地ト化シ去レリ而シテ今日尙存スル樹木ハ唯二十九種ニ過ギズ即チ左ノ如シ

樺太屬島ノ樹木

海馬島ハ一ニトドモシリ（トントモシリトモ云フ）又ハマネロント稱シ本島ヲ距ル三十哩沖ナル舊火山島ニシテ玄武石ヨリ成ル周圍五里高サ千四百尺其大部分ハ嶮惡ナル屹岩直ニ浪ニ洗ハレ爲ニ海岸ヲ迂回スル能ハズ主ナル附屬礁二十七其過半ハ柱狀石理ヲナス而シテ木本植物ハ只僅ニがんかうらん、こけももノ二種ニ過ギズ他ハ皆草本ナリ海馬島ノ植物ハ余ノ採集セル者百八十三種十七變種アリ宮部博士ノ樺太植物誌ニ見ユル者十一種共通ノ者十種アリ往時本島ハ鬱蒼タル森林タリシモ此島ニ出漁スル露人ノ爲ニ亂伐ノ禍ニ罹リテ巨木ノ跡ヲ斷チ遂ニ現時ノ如ク草本



ぞえまつハ南宇須附近ナル鎮守ノ神社ニ往時ノ移植ニ係ルモノタゞ數本アルヲ見ルノミ而シテ此處ニ尙一本ノ  
いぬつげノ生ズルアルヲ見ルいぶきハトドシマ崖ノ頂邊ニ僅カニ小部分ヲ限ラレテ生ジ他ニハ一モ針葉樹ノ跡  
アルコトナシ

闊葉樹中ニハあくえぞたけかんばん、さればたけかんばん多數ヲ占メ宇須ノ山頂ヨリ東泊皿<sup>トマリサ</sup>ニ向フ山梁、頂上ヨリ  
宇須ニ下ル嶺、北古丹ヨリ磯浦ニ向フ脊梁ニ多シ以上ノ土地中宇須ヨリ東泊皿ニ向フモノ樹勢良クシテ幹ハ直  
立スレドモ他ハ方向ヲ定メザル強風ニ翻弄サレ樹勢亂レ伏臥シテ高カラズ其他闊葉樹ノ多キハ南宇須ト磯浦耕  
作地附近ニシテ宇須之レニ次グリ南宇須ハ岩石多ク此間おほみやまなくかまど、のりのき、みやまはんのき、  
つるうめもどき、ひろはのつりばな、まゆみ、やまぶだう、くは等アリ磯浦耕作地ハ坂路ニシテくは、みちの  
くきはだ著シクくはハ樹齡五十年ヲ算シ數丈ノ高サトナルみちのくきはだハ大木ナク能ク雌雄株ヲ混生ス其他  
のりのき、つるうめもどき、またたび等アリ海岸ニはまなす紅花ヲ開ケリ又磯浦ノ樺木帶ニハ處々ニいたやか  
へで混生ス宇須ニハけやまはんのき、みやまはんのき群生シのりのき其間ニ白花ヲ開キからふとなにわす、え  
ぞのほざきななかまど、かんばん、こぶのき等アリ北古丹<sup>コタン</sup>山上ニハきはなしやくなげ密生シ望樓坂ニハいはつ  
じ多クこけもヲ混生ス南古丹ノ崖地ニござんたちばな多クがんからんと共ニ群生ストドシマ崖ノおくえぞ  
たけかんばん、さればたけかんばん、ばっこやなぎ、とどしまやなぎ、やまぶだう等可ナリノ灌木群落ヲナシ草本  
ヲ混ズルコトナシ

要スルニ此海馬島ハ全島樹木頗ル少ナク之レニ加フルニ地勢甚ハダ峻惡風力極メテ強キガ爲メニ其樹木ノ成育  
殊ニ甚シク害セラル若シ磯浦、南宇須、北古丹、泊皿ノ移住民將來漸次ニ多キヲ加ヘ來リ人口從テ多數ニ及ベ  
バ遂ニハ斯ニ伐木令ヲ出シテ以テ其伐採ヲ制限スルニ非ラザレバ則チ本島ハ早晚遂ニ無木島ニ化スルヲ免レザ  
ルヤ蓋シ疑ヒナカルベシト信ズ